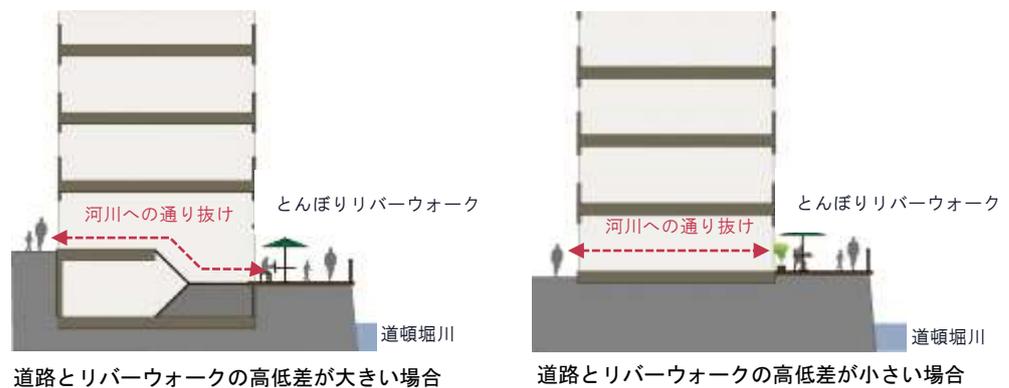


とんぼりリバーウォーク沿いの敷地では、遊歩道に面した階に川側へのアクセスを確保するなど、建築物と河川空間とがつながるような形態意匠となるよう工夫する。

リバーウォークと建築物のフロアに段差が生じる場合は、建築物内に階段を設けるなど、河川側への親水性に配慮しましょう。

また、建築物の2階部以上の河川側にテラス等を設けるなど、水辺に近づける空間を創出するよう工夫しましょう。

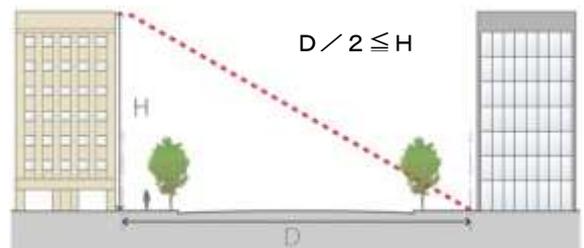
建築物の前面道路から河川側に通り抜けられる通路を設けることにより河川空間との一体感がより演出できます。



### 高さに係わる基準

敷地前面の当該街路幅員を2で除して得た値以上となるよう努めるものとする。

通りとしてまとまり感のある景観とするために、建築物の高さ(H)は、できるだけ敷地前面の街路幅員(D)の2分の1以上となるよう努めましょう。



### 景観コラム 通りのプロポーションについて

通り空間の印象は、道路の幅員(D)と沿道の建築物の高さ(H)の比率(D/H)によって異なります。D/Hが大きいと広がり感のある開放的な印象の空間となりますが、通りとしてのまとまりは感じにくくなります。逆にD/Hが小さいと囲まれ感のある落ち着いた印象の空間となりますが、場合によっては圧迫感を感じることもあります。

芦原義信は著書『街並みの美学』の中で「 $D/H=1$ のとき、高さとは幅との間に或る均整が存在」すると述べています。重点届出区域では、通りとしてのまとまり感のある街路景観をめざし、D/Hが2分の1以上2未満となるよう検討しましょう。

## 建築物の間口幅及び建築面積

建築物の間口幅は10m以上、建築面積は200㎡以上となるよう努めるものとする。

間口幅が広く、建築面積の大きい建築物が連続するまちなみは、都心らしい景観となります。できるだけ共同化に努めましょう。

その場合、無機質で単調な壁面とならないよう、マリオンを設けるなど、形態意匠を工夫しましょう。



建物の間口を街区いっぱいにとった建物の例



## 外壁に係わる基準

建築物の正面だけでなく、当該街路や隣接する公園等の公共空間\*から見える、建築物の側面や背面の形態意匠も工夫する。

敷地に隣接する公共空間からの見え方にも配慮し、建築物の側面や背面の形態意匠も工夫しましょう。

また、外壁には設備配管や室外機などの設備が露出しないよう配慮しましょう。



公園内からの見え方にも配慮した例



公園側に表情をつけた壁面の例



※見え方に配慮すべき公共空間は、区域により異なります。各区域の景観形成基準を確認しましょう。

大規模な壁面は、圧迫感のある単調なものとならないよう、壁面の分節化など形態意匠を工夫する。

圧迫感の低減には、建築物の形態の変化による分節化や外観色彩による分節化が効果的です。周辺のまちなみとの関係に配慮した形態意匠となるよう工夫しましょう。



色彩による分節化の例

建築物が主要道路の交差点、屈曲部及び突き当たり等、多くの人の視線を集めやすい場所に位置する場合は、まちなみのアクセントとなるよう景観上の工夫をする。

ビュースポットになる交差点付近など、多くの人の視線を集める場所では、デザイン上のアクセントを取り入れるなど工夫しましょう。

外構部にシンボルツリーを配置して緑のアクセントとすることも効果的です。



建物の形態や意匠を工夫した例



シンボルツリーを配置した例

低層部と中高層部の形態意匠・仕上げを分節するよう景観上の工夫をする。

中遠景の圧迫感を軽減するため、低層部と中高層部で形態意匠や仕上げを分節するなど工夫しましょう。

また、低層部における開口部の位置や大きさを配慮することにより、通りのにぎわいづくりに寄与することもできます。



低層部と中高層部の階高を変えた例

坂の下からの見え方を意識し、壁面の分節化や緑化などにより圧迫感を軽減させるなど、建築物の形態意匠を工夫する。

坂や丘陵の上部にある敷地においては、敷地境界付近に緑地を配置するなど、圧迫感を軽減させるよう工夫しましょう。



敷地際の緑化により迫感を軽減した例



対岸、橋上及び水上からの見え方を意識して、開口部やバルコニーなどを設けた表情のある形態意匠となるよう工夫する。

沿川の建築物は、対岸等からも視認されるため河川側の形態意匠を工夫しましょう。  
建築物の「裏」に見せないよう工夫しましょう。



河川側にテラスを設けている例



### バルコニーに係わる基準

手摺に透明ガラスを使用しないなど、道路や公園等の公共空間※から洗濯物や室外機等が見えないよう工夫する。

バルコニーに設置する物干や室外機は、可能なかぎり低い位置に設けるなど、公共空間から見えないよう工夫しましょう。



内部が見えないインナーバルコニーの例



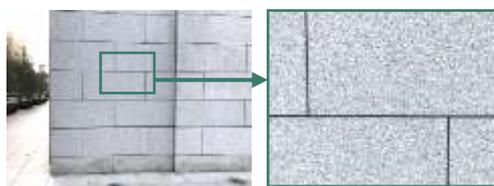
※見え方に配慮すべき公共空間は、区域により異なります。各区域の景観形成基準を確認しましょう。

## 材料に係わる基準

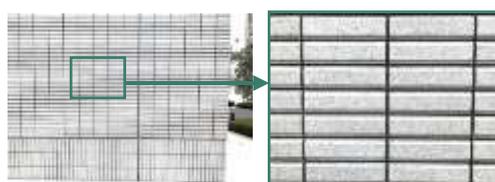


外壁などの材料は、汚れが目立ちにくいもの、維持管理が容易なもの又は経年により景観をそこなうことのないものとするよう努める。

耐久性、対候性の高い石材やタイルを材料に用いることで、経年とともに風合が増し、また一般的に維持管理が容易とされています。



外壁に石材を用いた例



外壁にタイルを用いた例



外壁や屋根などの材料は、太陽光を著しく反射する恐れのあるものを使用しないよう努める。

周辺に反射光などの影響を与える恐れがあるため、鏡面ガラスなどの反射率の高い材料は使用しないよう努めましょう。

材料	反射率 (%)	材料	反射率 (%)	材料	反射率 (%)				
正反射性材料 (垂直入射)	銀	93	塗料	タイル (白色)	70-80				
	アルミニウム特殊合金電解研磨面	90-95		白色ペイント・エナメル・ほうろう	80-85	タイル (淡色)	50-70		
	ガラス鏡面	80-85		淡色ペイント一般	30-70	タイル (濃色)	10-20		
	水銀・アルミニウム	70-75		濃色ペイント一般	15-40	石材一般	20-50		
	金・クローム・ニッケル・白金	60-70	紙	白紙：奉書	85-91	赤れんが (新)	25-35		
	すずはく・銅はく・アルミはく	50-60		白紙：吸収紙・ケント・鳥の子	70-80	赤れんが (古)	5-10		
	透明ガラス	20-30		白アート紙	60-65	コンクリート・セメントがわら・スレート (淡色)	20-30		
	水面	5		白粗製紙 (障子紙)	30-50	かわら・スレート (濃色)	10-20		
	拡散性材料	金属・ガラス		炭酸マグネシウム・酸化マグネシウム (特製, 反射率基準)	98	トレーシングペーパー	20-25	白しっくい壁 (新)	75-85
				硫酸バリウム	93	新聞紙	40-50	黄大洋壁	70-75
酸化アルミニウム			80-85	淡色壁紙・ふすま紙一般	40-70	白壁一般	55-75		
アルミラッカー			60-70	濃色壁紙・ふすま紙一般	20-40	和風砂壁 (茶ほか淡色)	20-40		
つや消しアルミニウム			60-80	ハترون紙	25-35	濃色壁一般	15-25		
粗面クローム			50-60	布類	木綿・麻 (白)	60-70	テックス (白色)	50-70	
亜鉛引鉄板 (新)			30-40		木綿・しゅす (黒)	2-3	テックス (淡色)	30-50	
乳白ガラス (全乳)			60-70	木材	淡色カーテン	30-50	畳 (新)	50-60	
すきがけガラス			30-40		黒ビロード	1-3	ビニタイル・アスタイル (淡色)	40-70	
すりガラス・型板ガラス			15-25		ひのき板	55-65	ビニタイル・アスタイル (濃色)	10-20	
	杉板	30-50			拡散性材料 一般	白砂利	20-40		
えぞ松	60	なら	35	地表面		砂利・コンクリート	15-30		
ベニヤ板	30-40	アスファルト舗装	15-20						

建築材料の反射率 (出典：日本建築学会 編「建築設計資料集成 環境 1」)

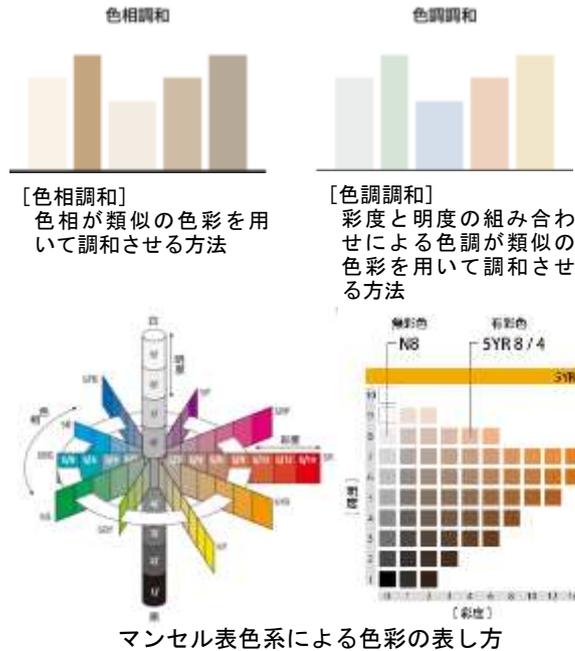
## 色彩に係わる基準

周囲から突出した、圧迫感が強い高彩度の色彩は避ける。

色彩は彩度 6 以下（日本工業規格 Z8721 に定める彩度）とする。（ただし石材・木材等の素材感のある自然材料は除く。）

周囲の色彩と調和させるため、色相が近い色彩を使う方法（色相調和）や、色調を合わせる方法（色調調和）などにより、周囲から突出しないよう工夫しましょう。

大阪のまちなみには彩度の低い建築物がたくさんあります。まちなみから突出せず調和させるため、建築物の壁面には彩度が低いグレイッシュな色調の明るめの色彩を用いるなどの配慮をしましょう。



周囲のまちなみや建築物全体の形態意匠と調和のとれた色彩とする。

### [御堂筋地区]

周囲のまちなみや建築物全体の形態意匠と調和のとれた、風格ある御堂筋沿道にふさわしい落ち着いた色彩とする。

### [堺筋地区・四つ橋筋地区・なにわ筋地区]

周囲のまちなみや建築物全体の形態意匠と調和のとれた、落ち着いた色彩とする。

### [国道2号地区]

周囲のまちなみや建築物全体の形態意匠と調和のとれた明度の高い色彩とする。

### [土佐堀通地区・中之島地区]

周囲のまちなみや水辺景観、建築物全体の形態意匠と調和のとれた、落ち着いた色彩とする。

外観の色彩は、建築物の形態意匠に応じて全体として調和したデザインとなるよう工夫しましょう。また、建築物単体だけでなく、周囲の建築物の色彩とも調和するよう配慮しましょう。

重点届出区域では、周囲のまちなみの特徴が比較的明確なため、典型的な敷地・建築物条件における景観形成の例（i-81～95 ページ）も参考に、地区ごとの特徴に応じた色彩を選択しましょう。

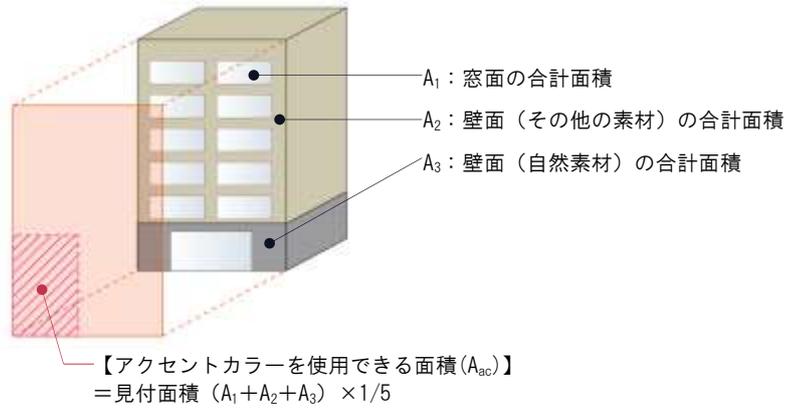
落ち着いた色彩とするには、暖色系\*ではおおむね彩度 4 以下、寒色系\*ではおおむね彩度 2 以下の色彩を用いると、周囲のまちなみから突出することはありません。



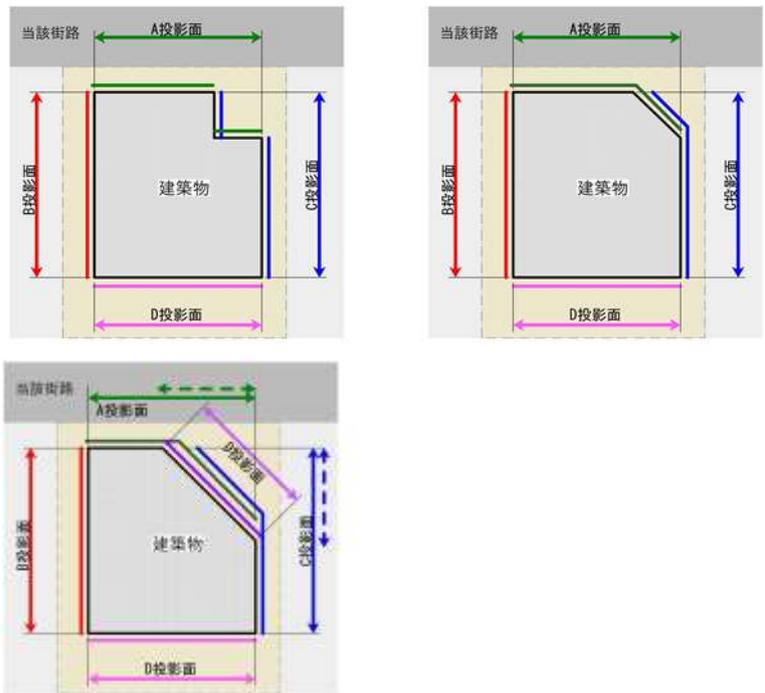
※ 概ね R～Y の色相が暖色系、BG～PB の色相が寒色系に該当します。その他の色相は中性色に分類されます。

彩度 6 を超える色彩を用いる場合は、アクセントカラーとして効果的に使用し、各面の見付面積の 5 分の 1 未満とする。

アクセントカラーを使用する場合は、壁面に使用されている自然素材や窓面も含む全見付面積の 5 分の 1 未満としましょう。



各面の見付面積は、次のとおり投影面毎に見付面積を求めましょう。



当該道路に面する見付幅が  
 AまたはC投影面幅の 1/2  
 以上の場合

アクセントカラーを中高層部で用いる場合は、少ない面積でシンプルにまとめるよう努める。

建築物の外観に複数の色を使用する場合は、ベースカラー、サブカラー、アクセントカラーの3つに分けて配色を考えることも有効です。

●ベースカラー

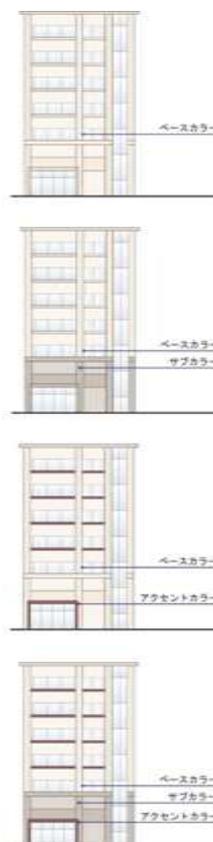
- ・外観の大部分を占める色彩で、建築物のイメージの基調となるものです。
- ・周辺のまちなみと調和するよう、ベースカラーには低彩度の色彩を用いるよう努めましょう。

●サブカラー

- ・外観に変化を与え特徴づけるための色彩で、ベースカラーを補うものです。
- ・大面積の壁面の単調さや威圧感、圧迫感を抑えるため、ベースカラーとの調和を考えながらサブカラーの採用を検討しましょう。

●アクセントカラー

- ・全体の色調に変化をつけるとともに空間を引き締める効果があり、他の色を際立たせる色彩で、建築物のごく一部に用いるものです。
- ・ベースカラーやサブカラーとの調和を考えながら、小面積で効果的に配色しましょう。



◎配色のポイント

建築物の外観の配色を考える際のポイントを示します。

[色と面積]

- ・小面積の色見本でおとなしく見えても、壁などの大面積になると予想以上にあざやかに見えることや、明るく感じる場合があります。できるだけ大きな面積の色見本やサンプルで検討しましょう。



[周辺の色彩との関係]

- ・低彩度色であっても周辺の建築物と色調や色相が大きく異なると違和感が強まる場合があります。極端に明るい色（明度9以上）や極端に暗い色（明度4.5以下）、低彩度であってもGY・G・BG・B・PB・P・RP・Rなどの色相の色は周辺から突出しやすいので注意が必要です。



[色数]

- ・色数を多く使用することや、個性の演出や区別のために過度の色分けを行うと、雑然としたまとまりのない印象になりがちです。できるだけ少ない色数でシンプルにまとめるよう努めましょう。



## 屋外階段に係わる基準



※見え方に配慮すべき公共空間は、区域により異なります。各区域の景観形成基準を確認しましょう。

当該街路や隣接する公園等の公共空間※から見えない位置に設置するよう努める。やむを得ない場合は、修景措置を行うなどにより、建築物全体と調和するよう、形態意匠を工夫する。

公共空間から見える位置に配置する場合は、建築物の壁面と一体的なデザインとすることや、ルーバーにより修景措置を行うなどにより、建築物全体と調和するよう工夫しましょう。



屋外階段をルーバーで覆った例

## 建築設備に係わる基準



※見え方に配慮すべき公共空間は、区域により異なります。各区域の景観形成基準を確認しましょう。

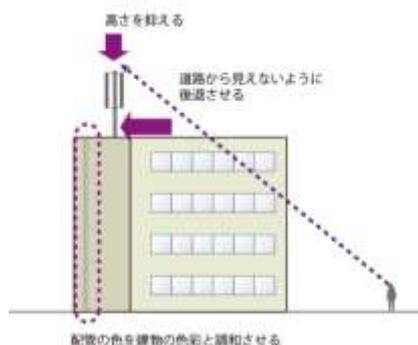
配管設備などは、道路や公園等の公共空間※に面する外壁に露出させないように工夫する。やむを得ず露出する場合は、建築物全体と調和するよう、形態意匠を工夫する。

高架水槽、冷却塔設備及びその他屋外設備機器を屋上に設置する場合は、当該街路や隣接する公園等の公共空間※から見えない位置に設置するよう努める。やむを得ない場合は、ルーバー等により目隠しをするなど修景を工夫する。

テレビアンテナ等は、当該街路や隣接する公園等の公共空間※から見えない位置に設置するよう努める。また色彩は建築物等との調和を図る。

やむを得ず配管設備などが露出する場合は、建築物の外観の色彩と同色の仕上げとするなど、周囲から目立たないように工夫しましょう。

やむを得ず屋上に屋外設備機器やテレビアンテナ等を配置する場合は、見えない位置に設置することや、ルーバーにより修景措置を行うなど、周囲から目立たないように工夫しましょう。



壁面を最上階から1層分立ち上げ、さらに内側に植栽を施すことで建築設備等を修景している例

## 付属施設に係わる基準

駐車場（サービスヤード、機械駐車設備を含む）、駐輪場及びごみ置場等は、周辺景観や敷地内の建築物等と調和するよう、形態意匠を工夫する。

駐車場（サービスヤード、機械駐車設備を含む）、駐輪場及びごみ置き場等は、周辺景観や敷地内の建築物等と調和した形態意匠とするとともに、当該街路から見えない位置に設置するよう努める。やむを得ない場合は、目隠しや緑化などにより修景を行う。

できるだけ建築物と調和させ、独立して設置する場合には建築物と一体的にデザインしましょう。

やむを得ない場合は、駐輪場等の周りに高木や生垣を配置するなど、周囲から目立たないように工夫しましょう。



主要道路を避け駐車場出入口を設置している例



駐輪施設を修景している例

## 植栽に係わる基準

植栽は、周辺景観や敷地内の建築物等と調和するよう、樹種も考慮して高木・中木・低木を適切に配置する。

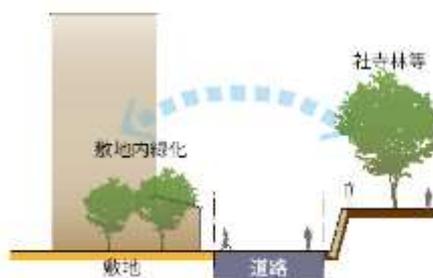
植栽は、周辺景観や敷地内の建築物等と調和するよう、樹種も考慮して適切に配置する。

周辺のまちなみと調和させ、建築物と一体的にデザインするなど、樹種や配置により建築物を効果的に演出しましょう。

地域に残された緑と調和するよう緑化に努める。

敷地内の緑化は、社寺林等の地域に残された緑と連続性が感じられる配置とするなど、地域の緑との調和に努めましょう。

敷地から地域の特徴的な緑が見える場合には、視線を誘導するよう緑地をデザインするなど、地域の緑を引き立てるよう工夫しましょう。



上町台地

## 塀・柵に係わる基準



主たる道路に面して、塀又は柵を設置する場合は、開放的で透過性の高い構造とするなど、周辺景観や敷地内の建築物等と調和した形態意匠とする。



当該街路に面して、原則、塀又は柵を設置しない。やむを得ず設置する場合は、開放的で透過性の高い構造とするなど、周辺景観や敷地内の建築物等と調和した形態意匠とする。

塀や柵を設置する場合は、透過性の高い構造とするなど、周辺のまちなみや敷地内の建築物と調和した形態意匠としましょう。



透明のガラスで排気エリアを覆っている例



敷地際の緑と合わせてデザインされた透過性のある柵としている例

## 景観コラム 市街地にうるおいを与える外構設計のエッセンス

「敷地、建物周辺を緑化する」では不十分です。良好な都市景観形成において、景観の質を向上させるために、樹種の選定と植栽位置を的確に考慮することが必要です。

### <スケール感>

- ・建物を広く見せたい時（図上の左図）、長大壁面を分節化し狭く見せたい時（図上の右図）、建物を大きく立派に見せたい時（図下の左図）、建物を小さく見せて圧迫感を軽減したい時（図下の右図）のように植栽するのがよいでしょう。



建物を広く見せる



建物を狭く見せる



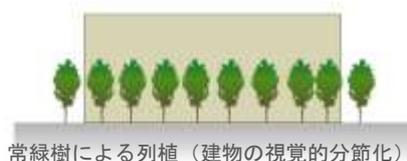
建物を大きく見せる



建物を小さく見せる

### <植栽デザイン>

- ・屋外空間の設計においては、建物にコンセプトがあるように、外構部分にもコンセプトが必要です。特に、植栽デザインは、このコンセプトに基づいて行わなければなりません。
- ・賑やかな都市的イメージの植栽と里山的イメージでは、当然、植栽樹種や植栽形式が異なります。常緑樹と落葉樹、在来種と外来種、樹形と高・中・低木の組み合わせ、秋の色彩など全てを考慮しながら、樹種選定し配植位置を決めることが不可欠です。



常緑樹による列植（建物の視覚的分節化）



落葉・常緑、高・中・低木の混色  
（四季の変化、自然的な雰囲気演出）

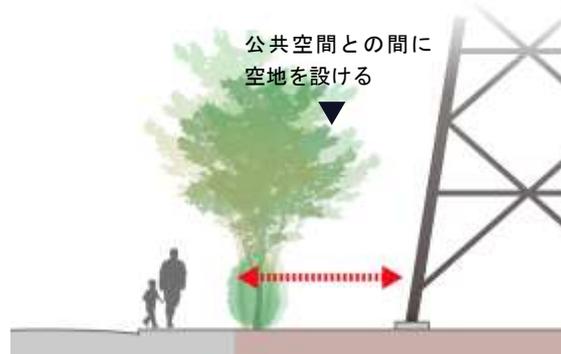
【第7期\_第8期(H24\_H28)】大阪市都市景観委員(緑地計画) 下村 泰彦  
(大阪府立大学大学院 人間社会システム科学研究科 教授)

## 【工作物の基準】

### 配置に係わる基準

敷地際に空地を設け、周辺への圧迫感や威圧感の軽減に努める。

周辺のまちなみのスケールから突出する大きな工作物については、敷地際に空地を設けることにより圧迫感や威圧感の軽減に努めましょう。



当該街路や隣接する公園等の公共空間※からの見え方に十分配慮し、工作物に付属する駐車場等がある場合は、その周囲及び出入口等の緑化に努める。

駐車場等を設ける場合は、公共空間からの見え方に配慮しましょう。  
駐車場等の周りに高木や生垣を配置するなど、緑化に努めましょう。



※  
見え方に配慮すべき公共空間は、区域により異なります。各区域の景観形成基準を確認しましょう。

### 外観に係わる基準

工作物の正面だけでなく、当該街路や隣接する公園等の公共空間※から見える、工作物の側面や背面の形態意匠も工夫する。

敷地に隣接する公共空間からの見え方にも配慮し、工作物の側面や背面の形態意匠も工夫しましょう。



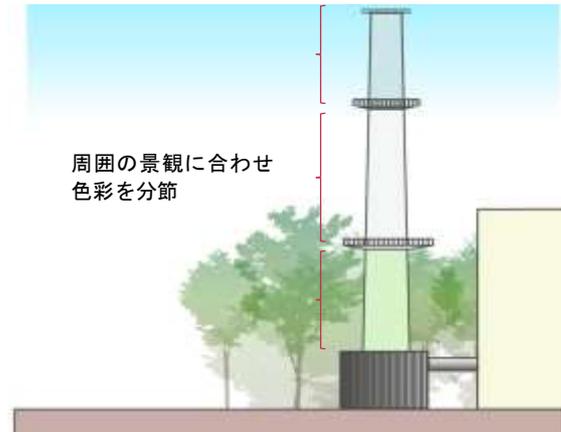
全方向から見える吸気塔の有機的なデザイン例



※  
見え方に配慮すべき公共空間は、区域により異なります。各区域の景観形成基準を確認しましょう。

大規模な面は、圧迫感のある単調なものとならないよう、形態意匠を工夫する。

圧迫感の低減には、工作物形態の変化による分節化や外観色彩による分節化が効果的です。周辺のまちなみとの関係に配慮して形態意匠を工夫しましょう。



材料は、汚れが目立ちにくいもの、維持管理が容易なもの又は経年により景観をそこなうことのないものとするよう努める。

外観を構成する部位による雨掛かりや日当たりなどの条件を考慮して、適切な材料を使用するよう努めましょう。

石材などの自然素材はエイジングにより外観に深みが出てきます。時間の流れも考慮したデザインを検討しましょう。



エイジングにより味わいを深めた例

対岸、橋上及び水上からの見え方を意識した形態意匠となるよう工夫する。

対岸や橋上からみると、思わぬところが目立つことがあります。河川に面する場合は、見え方に配慮してデザインしましょう。



河川からの見え方を意識した橋梁の例

## 景観コラム ランドマークとなる土木構造物

【第 8 期\_ (H26\_)】大阪市都市景観委員会(公共施設計画) 岡田 昌彰(近畿大学 理工学部社会環境工学科 教授)